

栃木市シビックコア地区の中核施設として合同庁舎を整備

～栃木地方合同庁舎～

～ 概要 ～

本プロジェクトは、旧栃木地方合同庁舎において、耐震性能の不足、老朽、狭あい等の問題を有しており、利用者の安全・安心と利便性を確保する上で支障となっていたため、集約化による国有財産の有効活用の観点から、早急に新たな庁舎の整備が計画された。

また、栃木市と連携し、栃木市シビックコア地区の中核施設としてまちづくりへの貢献を図るものである。

■位置図



■経緯

- 平成16年度 「栃木市シビックコア地区整備計画」を策定
- 平成21年度 新規事業採択
- 平成30年度 工事着手
- 令和2年度 栃木地方合同庁舎完成
- 令和5年度 事後評価完了

■シビックコア地区形成方針図



(栃木市、H30.10.22更新、<https://www.city.tochigi.lg.jp/soshiki/41/222.html>、R5.8.8時点)

■着手中



旧栃木税務署



旧栃木公共職業安定所

■諸元

敷地：栃木県栃木市河合町1314-1
敷地面積 約2,900㎡
建物：鉄筋コンクリート造 地上5階建て
延べ面積 約4,140㎡
事業期間：平成30～令和2年度
事業費：約14億円
入居官署：栃木税務署、栃木公共職業安定所

【本事業の効果】

1. 行政サービスの向上
 - ・耐震性能の不足、老朽、狭あい等の解消により施設利用者の利便性、安全性、業務効率の向上を図る。
 - ・ユニバーサルデザインを取り入れたバリアフリー庁舎として整備を図る。
2. 国有財産の有効活用
 - ・分散している官署を集約することにより国有財産の有効活用を図る。
3. 地方公共団体との連携
 - ・栃木市と連携し、栃木市シビックコア地区の中核施設としてまちづくりへの貢献を図る。

■着手後



事業計画地（完成後）

1. プロジェクトの内容と目的

本プロジェクトは、旧栃木地方合同庁舎において、耐震性能の不足、老朽、狭あい等の問題を有しており、利用者の安全・安心と利便性を確保する上で支障となっていたため、集約化による国有財産の有効活用の観点から、早急に新たな庁舎の整備が計画された。

また、栃木市と連携し、栃木市シビックコア地区の中核施設としてまちづくりへの貢献を図るものである。

■旧庁舎の概要

入居官署	延床面積 建築年次	不具合状況
栃木税務署 栃木公共職業安定所	1,433㎡ 1967年 658㎡ 1977年	老朽、狭あい、分散、 耐震性能不足等

外観	位置図
 <p>栃木税務署</p>  <p>栃木公共職業安定所</p>	

■プロジェクトの経緯

	関東地方整備局	栃木市
平成16年度	「栃木市シビックコア地区整備計画」策定	
平成17年度		「栃木市シビックコア地区整備推進連絡協議会」を開催
平成21年度	栃木地方合同庁舎 新規事業採択	
	平成22年度予算概算要求見送り	
	入居官署の見直し	
平成25年度	栃木地方合同庁舎 再評価	
	全体事業費の見直しによるコスト縮減	
平成28年度	栃木地方合同庁舎 再評価	
平成30年度	工事着手	
令和 2年度	工事完了	

■諸元・概要図

敷地：栃木県栃木市河合町1314-1
 敷地面積 約2,900㎡
 建物：鉄筋コンクリート造 地上5階建て
 延べ面積 約4,140㎡
 事業期間：平成30～令和2年度
 事業費：約14億円
 入居官署：栃木税務署、栃木公共職業安定所



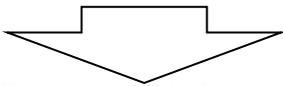
■周辺及び事業実施前後の状況

【シビックコア整備計画について】

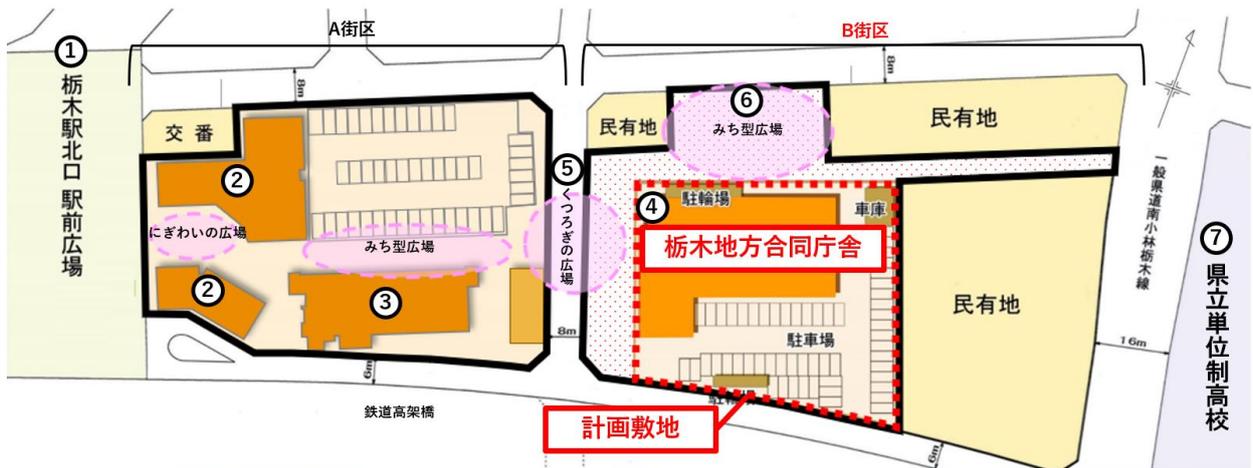
栃木駅周辺土地区画整理事業地区などを中心に官公庁施設と民間建築物等が連携したまちづくりを進める区域として、栃木市がシビックコア地区整備計画を策定、国土交通省関東地方整備局が平成16年4月26日に同意。

【シビックコア地区整備の基本方針】

- ・教育文化都市を担う活動の支援・交流促進
- ・栃木市固有の生活文化を備えた都市拠点の形成
- ・ついでに楽しみ・学びができる複合的、融合的空間の創出
- ・個性ある魅力的な都市空間の創出



官公庁施設と民間建築物等の機能、空間、景観の連携による魅力と賑わいづくり



① 栃木駅北口 駅前広場 ② 左|ホテル・店舗棟 右|栃木市観光交流館 ③ マンション棟 ④ 庁舎、広場全景 ⑤ くつろぎの広場 ⑥ みち型広場 ⑦ 県立単位制高校

2. プロジェクトの効果

1) 種々の定量的効果

■施設利用者（職員）の調査結果

職員を対象に行った満足度調査の結果を以下に示す。総合満足度が3.71であり、概ね良好な満足度の結果となった。項目別に見ると、「清掃」、「交通の便」の満足度が高く、職員の執務スペースについて好印象を得ている。一方で、「駐車場」は満足度が低く、狭いという意見があった。

職 員	アンケート調査の概要(令和元年実施)
対 象	職員（回収数:168人 回収率:92.3%）※コロナ禍のため職員のみ
調査内容	「総合満足度」、「自席周り」、「執務室」、「仕事スペース」、「執務室以外」、「快適性」、「利用者安心安全」、「地域への影響」に関する項目について5段階評価
調査結果	
「総合満足度」 3.71 （全施設平均 3.61）	
満足度が高い項目	「清掃」、「交通の便」 ・ほとんどの項目で満足度が高く、特に「清掃」「交通の便」の満足度が高い
満足度が低い項目	「駐車場」 ・狭いという意見が多数

2) 施策への効果

官庁施設に求められる施策への対応として、環境保全性、木材利用推進、ユニバーサルデザイン、防災性への取組を行っている。また、地域性への取組として、地方公共団体との合築、オープンスペースの設置及び景観配慮の取組を行っている。（地域性への取組については、3. 1及び3. 2）を参照）

■環境保全性への取組

環境保全性への取組は屋上に太陽光発電設備を設け日中の電気負荷の削減に取り組むなどしている。また、屋上緑化などを進め、資源の有効活用等を図っている。



太陽光発電設備



屋上緑化

写真 2-1

■ユニバーサルデザインへの取組

ユニバーサルデザインについては、建築物移動等円滑化誘導基準を満たし表示の見やすさや段差を極力減らし移動のしやすさ等利用者の立場を考慮し、必要な機能を盛り込んでいる。



多機能トイレ



インターホン



事務室出入口(自動扉の設置)

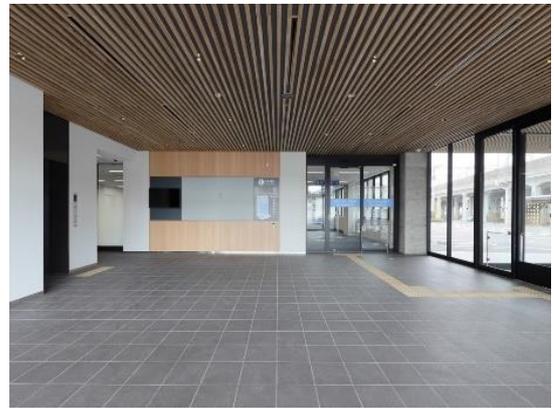
写真 2-2

■木材利用推進への取組

本プロジェクトでは、木材の利用を促進することで温もりのある快適な生活空間の形成や、地球温暖化の防止及び循環型社会の形成等に貢献している。



ピロティ(天井仕上げに木材を使用)



エントランスホール(天井仕上げに木材を使用)



見世蔵ギャラリー(壁仕上げに木材を使用)



駐輪場(壁・天井仕上げに木材を使用)

写真 2-3

■防災性への取組

防災性については、官庁施設の総合耐震・対津波計画基準に基づいた取組がなされているほか、特に防災に配慮した取組が行われている(電気室を上階(最上階)へ設置)。

3. プロジェクト実施にあたっての特記事項

1) 地域性への取組（地方公共団体との連携）

本プロジェクトは、「見世蔵ギャラリー」設置の取組を通して、栃木市のまちづくりに貢献している。

■まちづくりへの貢献

設備室	5F		
栃木税務署・業務センター栃木分室	4F		
栃木税務署	3F		
栃木税務署	共用会議室		2F
栃木公共職業安定所	エントランスホール 見世蔵ギャラリー		1F

地方公共団体との連携（「見世蔵ギャラリー」の設置）

写真 3-1

2) 地域性への取組（景観配慮）

本プロジェクトにおいて、「見世蔵ギャラリー」や合同庁舎のエントランスを天然木格子、漆喰壁、軒垂木などを取り入れたデザインとし、市中心部の歴史的町並みとのつながりや街の魅力と賑わいの演出に寄与する整備を行っている。

■景観配慮への取組

 <p>見世蔵ギャラリー外観(夜景)</p>	 <p>市中心部の歴史的町並み</p>
<p>市中心部の歴史的町並みとの調和</p>	

写真 3-2

4. プロジェクトによって得られたレッスン

本プロジェクトは、栃木市との連携を図るとことにより、まちづくりへの貢献など、プロジェクトとして、より価値の高い事業となった事例である。

今後のプロジェクトにおいても、今回の取組を参考とし地方公共団体等関連機関との連携を図り、より良質な施設整備につながるプロジェクトに取り組むこととする。

栃木市からの意見及び評価(参考)

JR両毛線・東武日光線が相互乗り入れする栃木駅は、本市の交通拠点であり、駅周辺地区は、都市拠点としての役割を担っています。

しかしながら、近年の都市機能の低下や連続立体交差事業などで生み出された大規模空地によって、地区の特性を生かした市街地が形成されていない状況にありました。

そこで、土地区画整理事業などの都市基盤整備と併せて、シビックコア地区整備計画による官公庁施設の整備や民間プロジェクトの誘導を総合的かつ一体的に促進し、本市の新たな拠点として整備を進めてまいりました。

シビックコア重点整備地区のA街区では、シビックセンター棟としての栃木市観光交流館「蔵なび」に加え、ホテル・店舗棟及びマンション棟等が完成し、各種イベントの企画・開催による集客や地区内住民の増加により、地区の魅力と賑わいが創出されています。栃木市観光交流館は、中高校生の利用も多く、若年層の居場所としても機能を発揮しています。

B街区においては、栃木地方合同庁舎を重点整備地区のリーディングプロジェクトとして整備いただきました。その整備にあたっては、本市の地域性を踏まえつつ、シビックコア重点整備地区の景観形成基本方針に沿った設計、外観等を採用いただいています。植栽配置、インターロッキングブロック舗装などにより重点整備地区全体として一体感のある街並みが形成され、エリア価値の向上に繋がっています。

A街区とのつながりを考慮したエントランスやギャラリースペース等の設置、駐車場配置により東側の県立高校までの動線が確保され、地区内に合同庁舎の利用者や学生等の人の流れが生まれています。また、駅前に国の行政機関を集積したことで、利用者の利便性が大きく向上いたしました。今後は人の流れの増加に伴い、周辺に店舗の出店等が進むことを期待しています。

引き続き、国・県・市・民間事業者それぞれの役割分担の中で連携を図りながら、栃木市の玄関口である栃木駅周辺地区がより魅力あふれるエリアとなるよう更なる活性化に取り組んでまいります。

5. 考察

本プロジェクトが完了し、耐震性能不足、経年による老朽、分散、狭あいの問題がある既存施設を市庁舎と合築することで、業務効率の向上と、国公有財産の有効活用を図ることができた。

また、市の施設との一体的な整備を行うことにより、地方公共団体との連携を図り、利用者の利便性の向上を図ることができた。

これらについては、事業計画の効果に関する各種の評価の確認、政策に基づく付加機能の確認を行うことにより、実施の状況を確認することができていると考える。

今後のプロジェクトにおいても、地方公共団体との連携を図り、地方公共団体や施設利用者など多くの人々にとって喜ばれるよう、プロジェクトに取り組んでいきたい。

【参考資料について】

本プロジェクトの参考資料については、下記の関東地方整備局のウェブページでご参照いただけます。

参照URL : <https://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/shihon00000247.html>